

【報告】 令和 5 年度第 2 回障がい児・者連携に関する意見交換会のまとめについて**【日時】**

令和 6 年 1 月 1 6 日（火）午後 2 時から午後 4 時まで

【参加機関】

和泉支援学校（教頭）、相談支援部会（代表）、就労支援部会（代表）、
障がい者基幹相談支援センター、子育て支援室、障がい福祉課

【意見交換会の目的】

障がい児・者連携に関する各機関の役割、現状、課題などを共有し、今後より良い連携体制の構築に向けて具体的な取組みを進めていくこと

【第 2 回意見交換会 議題】

- ①各機関のツールの確認
- ②支援学校での進路選択の進め方の確認
- ③情報の引継ぎ方等について検討

【協議内容詳細】**①各機関で使用しているツールの整理について**

各機関が使用しているツールを持参していただき、共通する項目をまとめた。（別紙参照）
各ツールの特徴や重視するポイントと、各機関が必要とする情報がどのようなものなのか確認を行った。

★各機関が使用するツールにおけるポイント**○就労支援部会**

「就労系障がい福祉サービスアセスメントシート（大阪市標準様式 V0L. 1）をベースに、支援が進むにつれて、より就職に向けての意識を持てる構成とし、就労に特化した内容（自分の強みなど）にしている。本人としっかり向き合ってアセスメントを行い、安定した通所ができるよう意識している。

『出た意見』

アセスメントシートの内容を充実させるためには、しっかりとアセスメントをして支援を行う事業所が評価される仕組みが必要であると考えている。

○支援学校

個別教育支援計画として保護者と共同作成しており、目標を立て、その評価を行う。小学部と中学部・高等部では異なるシートを使用し、年齢ごとで必要とされるスキルを分け、学校生活において、できる・できないを記載していく構成となっている。卒業後に情報共有のためのツールとして活用できるよう、学校から保護者に交付する。

○相談支援部会

大阪府の様式をベースとし、相談支援部会で「この内容があったらより良い」という項目を追加したものを和泉市版として使用している。アセスメントする回数を重ねるごとに、より詳しく、充実したものになる構成としている。

○子育て支援室

保護者が主となって作成する「わたしノート」を使用している。就園・就学などのタイミングで、先生や支援者に本人のことを知ってもらうこと、また、就学後も支援が必要な人が、「わたしノート」を学校側に共有し、スムーズな移行を行うことを目的としている。

決定通知書や個別支援計画等を綴るページもあり、事業所における支援内容についても確認ができるようにしている。

『出た意見』

河内長野市では、2022年4月2日以降に生まれたすべての子どもに「サポートブックはひと」を配布している。年に数回、保護者を対象とした記入会があり、スタッフが聞き取りを行いながら記入のサポートをしてくれる。

②支援学校での進路選択の進め方の確認

○各機関から出た意見

- ・事業所での実習中の関わり方や支援の仕方を考えるにあたって、実習前にももらう事前情報に「今回の実習の目的や目標、意味合い」が明確であれば、より効果的な見極めができる考える。
- ・学年によって、実習の目的や目標、意味合いが異なるため、そういった項目を明確化が必要である考える。
- ・相談支援専門員が学校とサービス担当者会議を行っているのであれば、計画案に今後の就労についてのことが記載されるが、会議をしていない場合は、実習や就労のことが記載されていないのが実情である。
- ・進路選択を行うにあたり、自分自身が何をしたいのかを知ることが難しい場合があるため、体験実習の経験を重ねることで、まずは自分自身を知るようにしている。
- ・就労系の事業所としても、本人とのミスマッチを防ぐために、本人と保護者のニーズ把握をさらに深めることが良いと感じている。
- ・上手いいかない原因として、本人の意向が反映されていないことが挙げられる。ステッ

プアップをするためにも、本人の働く意欲を確認することが重要である。

- ・自分で実習先を選ぶことができれば、次のステップアップにつながると考える。

○「社会性とは何か」について 意見交換会においては、以下のように整理した。

社会性とは：卒業後に必要なスキルや経験（※）が備わっているか、できること、できないこと、得意なこと、苦手なことが何かなど、本人の基礎的なスキルや経験のこと。

※一人で学校等に行けるか＝一人で行動ができるか、公共交通機関の利用ができるか

一人で買い物ができるか＝店員とのコミュニケーション、金銭の管理ができるか

大きな音を聞くとパニックになってしまう＝支援時の配慮事項

等

卒業後の移行時に、本人の「社会性」を踏まえたアセスメントとして情報共有がなされ、支援内容や支援方法を組み立てることができれば、スムーズに本人の特性に合った支援を始めることができる。しかし現状は、経験の機会自体が乏しく、アセスメントとするには情報が不足していたり、経験があっても、その経験によるアセスメントが、受け手となる卒業後の通所先にとって必要な情報としては不十分であるなど、有益な情報共有が支援者間でできていないことが課題であると分かった。

③情報の引継ぎ方等について検討

単なる情報の引継ぎ方だけでなく、進路選択を進めるにあたって、各機関同士の情報共有や協力体制が重要であることを共有した。そのため、進路選択の進め方を整理しつつ、情報の引継ぎ方を検討することとする。

【第2回意見交換会から見えてきた課題】

- ・事業所が本人・保護者のニーズをきちんと把握できていない場合、事業所とミスマッチが生まれてしまうため、事前にニーズを把握できるツールや情報の引継ぎ方を工夫する必要がある。
- ・学年ごとで進路のイメージの仕方や学校・相談支援専門員との関わり方、事業所の発信の仕方がそれぞれ違うため、整理を行っていく必要がある。
- ・高校3年生に上がる前から何をポイントに進路先や事業所を選んでいけば良いのかについて、本人・保護者に意識づけをしていく必要がある。

【今後検討すること】

- ・情報の引継ぎ方
- ・進路選択の進め方

【次回開催日】

令和6年3月25日（月）午後1時から午後3時まで

各機関の情報シートをまとめたもの（項目は就労アセスメントシートをベースに記載）

◎詳細を記載 ○一定の記載 △やや記載

	項目	説明	就労系	支援学校	計画相談支援	わたしノート
フ エ イ ス シ ー ト	基本情報	氏名・住所	○	○	○	○
	障がい情報	手帳・手帳詳細・支援区分	○	○	○	○
	収入等	年金・手当等	○		○	
	家族状況	家族構成	○	○	○	○
	居住環境	住居・交通手段	○		○	
	生活歴		○	○	◎	◎
	受診状況	病名・病状・服薬状況	○	◎	◎	
	心身状況	症状・支援内容	○	○	○	
	サービス利用状況	サービス・支給量・事業所	○		○	○
	生活の流れ		○		○	
基 本 シ ー ト	生活と家族に関すること	経済環境・住環境・意思決定	△		○	
	健康維持に関すること	服薬管理・食事管理・睡眠 病状の認識・通院	△		○	
	社会生活に関すること	キーパーソン・人付き合い 社会参加	△		○	
	その他	日常生活動作	△		◎	◎
就 労 分 野 シ ー ト	健康管理	体調・服薬・食事	○	○	○	
	日常生活管理	生活リズム・身だしなみ 清潔保持・金銭管理・移動	○	○	◎	
	対人技能	意思伝達・意思疎通 感情・協調性	○	○	◎	△
	就労準備	就労理解・就労意思・就労意欲	○	△		
	基本的労働習慣	挨拶・報連相・規則遵守	○	△		
	職業適性	指示の理解・持続力・責任感	○	△		
	サービス利用歴・就労歴		○		△	○
支 援 状 況	本人・保護者の願い		○	◎	◎	
	優先目標			○		
	支援内容	支援の経過・理由・配慮		○		○
	評価・引継ぎ			◎		
そ の 他	趣味・余暇				○	
	支援関係者			◎	○	
	健診					○
	相談の経過					○
	好きなこと・嫌いなこと			○		○